

【協議事項論点（本日議論いただきたいこと）】

2040年の瀬戸市での理想の暮らしを描く

2040年、瀬戸市ではどのような暮らしが行われており、どのようなまちになっているか。「第1回基本構想審議会でのキーセンテンスの深掘り」と、「まちづくりに活かしたい瀬戸市の付加価値・ポテンシャル」という2つの論点から、まちづくりの方向性を考えていきます。

論点1 第1回基本構想審議会でのキーセンテンスの深掘り

(1) 瀬戸らしいダイバーシティを実現する

- 瀬戸市でどのような暮らしが行われていると／瀬戸市がどのようなまちになっていると、多文化共生や女性活躍など、ダイバーシティが実現できていると言えるのでしょうか？
- 上記だけでなく、陶磁器作家や研修施設の研修生・卒業生、しごと塾卒塾生、様々な分野のツクリテ、アーティスト、起業家など…。そうした人たちの交流から、化学反応が起きることも「瀬戸らしいダイバーシティ」の1つと考えます。その実現のために、瀬戸市がどのようなまちになっていると良いでしょうか？

（話題提供者）神田すみれ委員、橋本美香委員、石川圭一委員

(2) 市民の瀬戸市に対する誇りを育む

- 瀬戸市でどのような暮らしが行われていると／瀬戸市がどのようなまちになっていると、市民が誇りを持てると言えるのでしょうか？

（話題提供者）伊藤和真委員、野々垣賢人委員

(3) 関係人口・共創人口を増やす

- 瀬戸市において、関係人口・共創人口の人たちと関わりながら、どのような暮らしが行われていることが／どのようなまちになっていることが理想なのでしょうか？
- 前回の意見交換の中で、「関係人口として関わる人とのつながりにはグラデーションがある」という意見がありました。瀬戸市は、どのような人に関係してもらおうと良いか／どのような方法で関わってもらおうと良いのでしょうか？

（話題提供者）鷺見英利委員、吉澤克哉委員

論点2 将来のまちづくりに活かしたい瀬戸市の付加価値・ポテンシャル

- 瀬戸市ならではの付加価値、ポテンシャルとは何でしょうか？
- 瀬戸市の魅力を高めていくために、まちづくりに何を活用すべきでしょうか？